

第184回
企画展

庄内の染め織り 〜歴史と技〜

平成25年

11/16(土)

〜

平成26年

2/9(日)



▲ 座繰機 (資料館蔵)

開館時間

午前9時～午後4時30分

休館日

11月中は無休・12月～3月は月曜日休館
(祝日の場合は翌日休館)
12月29日～1月3日は年末年始休館

入館料

一般 100円 小学生～大学生 50円
(土日は小・中学生無料)

当館調査員による展示解説

日時 11月17日(日) 12月1日(日)
午前10時より開始いたします

※駐車場に限りがありますので、お問い合わせの上ご来館願います。
なお、駐車場をご利用の方は事前にご連絡ください。

酒田市立資料館

SAKATA CITY MUSEUM

〒998-0046 山形県酒田市一番町8番16号

TEL/FAX 0234-24-6544

E-mail: sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp



▲ カイコの繭と糸巻き (資料館蔵)

第184回 庄内の染め織り

～歴史と技～

庄内で作られる布は、素材・技法・歴史背景が様々です。県内の各企業・団体・施設にご協力頂き、その特色ある品々をみなさまにご紹介致します。



▲カイコの幼虫

●流通の拠点・酒田

江戸時代、内陸で収穫された「紅花」「青苧^{あおそ}」は最上川を下り、酒田で船に積み替えられて江戸・京都へ運ばれました。山形を象徴する染料「紅花」、江戸時代の代表的繊維「青苧」は一体どんな素材で、各地でどんな布製品になったのでしょうか。

●庄内藩士と松ヶ岡開墾場

明治維新後、庄内藩の士族は原生林を開墾し、松ヶ岡開墾場をつくり上げました。この時に始まったのがカイコを育成し繭を収穫する「養蚕」と「製糸」です。現在も庄内で続くシルク産業の基礎は、サムライたちの手によって固められたのです。

●カイコの一生

「絹（シルク）」はカイコの幼虫が作る繭から取れる動物性繊維です。カイコは人間の手助けが無いと生きる事ができず、古代から現在まで人間の歴史と深く関わってきた動物です。幼虫がさなぎになり、繭、そして成虫になるまでを解説します。

●職人訪問

街でよく見かけるお店の暖簾や、祭りののぼりはどんな風に染めているのでしょうか。酒田市の齋藤染工場さんにご協力頂き、手ぬぐいが出来るまで取材しました。



▲齋藤染工場 作業風景

●庄内の代表的な布

現在製作されている庄内の布として、「しな織り」「刺し子」「鶴岡シルク製品」を取り上げます。それぞれ違う技法・違う素材を使った特色ある品で、歴史があります。

さわられるコーナー

座繰機・しな布・まゆ・きびそ・青苧^{あおそ}
一体どんな手触りなのでしょう？

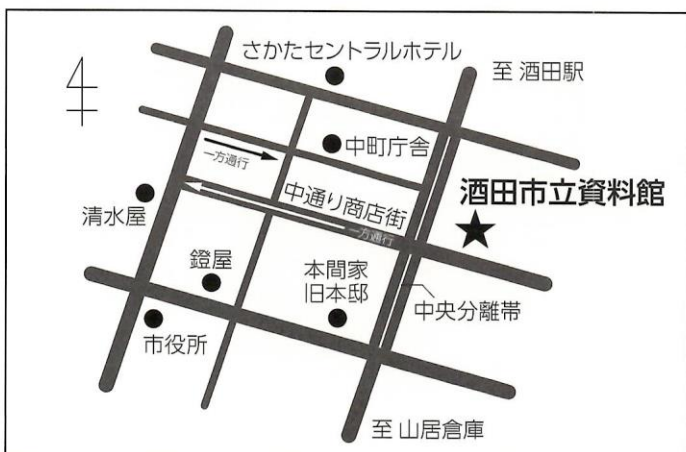
自由にさわってみて下さい！

協力機関（地域・あいうえお順）

酒田市：齋藤染工場・酒田市立光丘文庫・平田刺し子の会
松岡株式会社

鶴岡市：関川しな織協同組合・鶴岡織物工業協同組合
松ヶ岡開墾記念館・山形県立鶴岡中央高等学校

県内：河北町紅花資料館



酒田駅から車で5分、大通り緑地裏手にあります。

次回企画展

～酒田雑街道～

第185回企画展「雑を彩るお菓子」

平成26年2月15日(土)～4月3日(木)

酒田市立資料館

〒998-0046 山形県酒田市一番町8番16号

TEL/FAX 0234-24-6544

E-mail: sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp